

---

# 2010年度夏学期レポート

日本ASL協会実施・日本財団助成聴覚障害者海外奨学金事業

第3期生

管野奈津美

Master of ASL and Deaf Studies, Gallaudet University

---



カナダ側から見えるナイガアラの滝とレインボー。

## DEAF CULTURE CENTREでのインターンシップ

6月1日からカナダのトロントにあるDeaf Culture Centreでインターンシップを始めた。ダウンタウン（中心街）から路面電車で東に5分ほどいったところに元々ワイン工場だったところを再開発したディステラリー地区（The Distillery Historic District）がある。それぞれの古いレンガ風の建物内をリフォームし、レストラン、カフェ、ギャラリーなどが配置されており、そこにDeaf Culture Centreがある。Canadian Cultural Society for the Deaf（略称：CCSD）、つまりカナダのろうあ連盟が長年構想していたセンターで、2006年に設立された。Deaf Culture CentreはDe'VIA（ろう文化・経験を反映させたデフアートの名称）を支持



（上）ディステラリー地区にあるコーヒーハウス

（下）ディステラリー地区の中央広場

しており、カナダや世界中から集めたDe'VIAの作品を展示している。その芸術作品を展示したギャラリーだけではなく、カナダのろう者の歴史に関する資料の展示コーナー、手話言語学コーナーなどろう文化全般に渡って様々な展示が併設されている。それからろう児やろう児を持つ親のためのASLワークショップや若いアーティストのためのワークショップを提供している。私は主に展示やギャラリーツアーなどのイベントのアシスタントとしてインターンさせて頂いた。時々ろう者が訪ねてくるのでギャラリー内のガイドをさせて頂いたり、ギフトショップで客の対応させて頂く事もあった。実際に運営しているディレクター達のそばで色々仕事させて頂いたのでとても勉強になった。ディレクターは2人いて一人がろう者、一人が聴者だが、ASLができるのでコミュニケーション上では問題なく、楽しみながらインターンすることができた。また、ディレクターがバンクバーで行われる国際会議に参加するときにブースをたてるのでそのブースで流す映像を編集したり、ブースで配る広告やカードのデザインなどの仕事を担当させて頂いた。この夏、私に与えられた

プロジェクトはカナダのデフアーティストについて調査し、ネットワーク設立の準備をすることであり、雑務をこなしながら、並行して調査を行った。調査の結果、カナダにも先住民（イヌイット）も含めてたくさんのデフアーティストがおり、アメリカで得られなかった貴重な情報をたくさん得られた。特にアメリカに比べて若い女性のアーティストの活動が目立っていたように思う。

## 様々な人が訪れるDEAF CULTURE CENTRE

Deaf Culture Centreにはほぼ毎日のように様々な人がやってくる。CCSDの理事や地元のろう者が訪れ、ディレクター達と色々会議を行っている。また、アメリカ手話のクラスも週ごとにやっていて聴こえる学生もやってくる。トロント市内だけではなく、カナダやアメリカからもろう者の観光客が多い。中には外国からの観光客もいて、ヨーロッパ、オーストラリア、南米から訪れた人もいた。トロント市内にある大学の手話クラスを受講している学生の団体からギャラリーツアーを申し込まれることもあり、そのギャラリーツアーを担当させて頂いた。また地元のろう学校の先生が生徒を連れて見学にやってくる。そばを通りかかった観光客がぶらっと入ってきて一通りみていって「興味深い!」「ろう文化というのがあるなんて知らなかった」と感心した模様でコメント帳に感想を書いてくれる。手話クラスを受講している聴者の学生がもっと手話を学びたいとボランティアとして手伝ってくれる。センター内にギフトショップもあり、こどものための手話DVDや絵本も売っているので難聴学級や幼児クラスの先生が訪れ、クラスで使える教材としてどれがいいのかとアドバイスを求めて買っていく。またデフアート関係のグッズも売っているのでアートが好きな友達へのプレゼントにと求めてくる人もいる。まさに様々な人が毎日訪れるので本当にいい刺激になった。本当に芸術だけではなく、ろう文化全般や教育など幅広くろう者コミュニティ全体のニーズに応えてくれる場所になっていると感じた。



Deaf Culture Centreの入り口。緑色のオシャレなドアが目印。

## インターンシップを終えて

8月15日にDeaf Culture Centreでの2ヶ月半にわたるインターンシップを終えた。カナダのろう者たちがほぼ毎日訪れるので彼らの生活や経験について直に聞くことができ、とても貴重な経験であった。また、幼児から年配の方まで様々な年代のニーズに応じたワークショップを開催しており、ディレクター達は今ろう者たちが求めているワークショップは何だろうと毎日アイデアを出し合っていた。ろう者に関する支援というと専門的なろう教育や福祉が注目されがちだが、ろう者たちの手話、芸術、文化などに注目して支援していくことも大切ではないかと思う。幼少の頃からそういう支援をしていくことで自分に自信を持つだろうし、将来の選択肢ももっと広がるのではないかと思う。今日本各地でろう児の普通学校へのインテグレーションが増えている中、そういう支援も必要になってくるだろう。日本に足りない点は何だろうかと学べたインターンシップだったと思う。

## 修士論文発表会

カナダでのインターンシップを終えた後、論文発表のためワシントンDCに戻った。Deaf Studies学部で卒業生の論文発表会が行われ、私はデフアートについての論文を発表した。まだ少し論文修正は残っているが、留学で研究してきたことの集大成の一区切りとして論文をなんとか形にして発表することができ、安心している。

## 帰国

8月は慌ただしいスケジュールだったが、8月30日に無事に日本に帰国した。この帰国をもって正式に3年間の留学生活を終えることになった。

これで最後の学期レポートとなります。この場を借りて、素晴らしい留学の機会を与えて下さり、その上支援して下さいました日本ASL協会と日本財団に心からお礼を申し上げます。大変お世話になりました。そして3年間見守り応援してくれた家族に感謝したいと思います。今後、アメリカで学んだことを活かして何らかの形で貢献していけたらと思います。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

第3期生

管野 奈津美